



データを「読む」



消費ランキング動向から<すしの都>等の事業展開を考える

今回の「データを『読む』」では、最新の消費購買の動向について、(株)日本統計センター様にご寄稿いただきました。本稿では家計調査等のデータを用いて、北九州市の“すしの都”の事業展開の検討を中心に、山口市・広島市の概況や、最新の調査項目の変動について紹介します。

●北九州市の“すしの都”の推進について

1) “すしの都”課の設置

近年、毎年公表される総務省統計局の家計調査データに着目し、地域ブランド品等を開発して、地域の産業育成やプロモーションの推進を図る動きが活発になっています。

北九州市は、周囲を玄界灘・響灘・周防灘及び関門海峡というタイプの異なる海に囲まれ、魚の種類が豊富、かつ漁場から港（都市）までの距離が近く鮮度を保持しやすい環境にあります。しかし、少量多種の地産地消型のため、県外に“お魚天国”の環境にあることが周知され辛く、市民にも認知度が低い状況でした。

こうした中、同調査で「さしみ盛合わせ」の1世帯当たり消費額が日本一であることが分かり、北九州市の鮮魚文化の再発見に繋がったことも要因となり、2025年4月に市役所に“すしの都（みやこ）”課が新設され、地元の鮮魚及びすしの認知度向上、及び商品化・販売促進、観光客誘致等が推進されています。

図表 1 北九州市のすし関連消費の上位品目：2025年の金額と過去5年の順位推移
[各年数値は3ヶ年平均(ex.2025年値は2023-2025年平均)]

品目名	金額 (円/世帯)		北九州市の過去5年の順位推移					
	都市平均	当該市	平均	21年	22年	23年	24年	25年
<上位品目>								
いわし	451	702	3	1	2	4	2	5
たい	1,068	2,138	3	4	4	4	3	2
他の鮮魚 ※	6,433	10,238	1	1	1	1	1	1
さしみ盛合わせ	3,954	6,745	1	1	1	1	1	1
<他すし関連品目>								
あじ	1,047	1,601	7	9	8	7	5	6
さば	865	1,159	6	3	7	8	5	6
すし(弁当)	15,655	13,033	42	25	41	46	48	51
すし(外食)	16,346	15,512	34	37	43	32	26	31

※. まぐろ、さけ、さば、いか、たこ等の主要14品目以外、ひらめ、穴子、さわら等。
*. 赤数値は5位以内(順位は都道府県庁所在市及び他政令市の全52市対象)
資料: 家計調査の二人以上世帯の年間支出金額より作成

2) 富山市等との連携による『すしのゴールデンルート』の展開

北九州市は“すしの都”のプロモーションとして、2025年8月に富山県・JR西日本との三者による「すし連携協定」を締結し、JR大阪駅等の主要駅でのイベント開催や旅行商品の開発等、西日本を中心に自治体等と連携し、積極的に事業展開をしています。

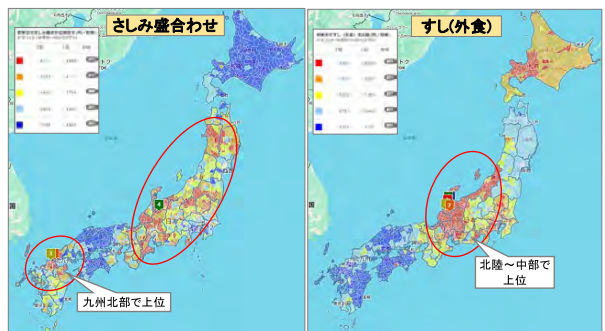
北九州市と富山県を結ぶ『すしのゴールデンルート』構築を目指し、各自治体に働き掛けており、12月の北九州市長と富山県知事の会談では、今後下関市が参加すると共に、広島県・岡山県から参加に前向きな回答があったと公表されています。

●北九州市及び関連都市の鮮魚関連消費の状況

1) 北九州市と富山市の消費の状況

同事業の推進にあたり、まずは北九州市の概況を確認します(図表1~3)。北九州市の家計調査全品目で「さしみ盛合わせ」「他の鮮魚」

図表 2 全国市区町村別の消費金額
-さしみ盛合わせとすし(外食)の比較-



資料: 家計調査 2025年(3ヶ年平均) *種子島以北を表示

の2品目が過去5年全て全国1位で、魚種別では「いわし」「たい」等が上位となっており、特定の種類ではなく様々な種類の魚が鮮魚の状態(さしみ等)で消費されていることが分かります。

一方、北九州市は2025年で「すし(弁当)」が51位、「すし(外食)」が31位であり、すし消費はかなり低調です。前者は関西、後者は中部で多く、北陸は両者とも高水準であり、富山市は順に4位、2位となっています。富山市は鮮魚の消費も全国1位ですが、同時になれ寿司・ます寿司も有名であり、弁当は発酵保存文化を有する地域で多く、外食は北陸から中部圏への流通が影響している可能性があります。

また、人口1万人当たり店舗数を見ると(2024年経済センサス-産業[小分類]別民営事業所数)、家計調査の対象52都市で比較した場合、鮮魚小売業店は1位富山市1.21店、2位北九州市1.15店と両市が上位ですが、すし店では9位富山市1.31店、35位北九州市0.88店と(1位金沢市2.12店)、北九州市は店舗数も「鮮魚」>「すし」の状況にあります。

家計調査の世帯主の年齢階級別の消費状況を見ると、鮮魚は高齢者で多いのに対し、「すし(外食)」は30代・40代で多く、若年層への訴求のためには、「鮮魚(さしみ)」ではなく「すし」としての商品開発、店舗展開が重要といえます。

2) 西日本の各関連都市の消費の状況

次に、西日本の各都市の魚種別の消費状況を確認し(図表3)、『すしのゴールデンルート』構築に向けた連携を検討します。前述の富山市は「ぶり」(次ページ図表4)、「いか」が全国1位、「えび」が4位であり、北九州市の上位とは異なり、両市で取扱う魚種を補完出来る関係性にあります。同じ品目が多い地域との連携パターンもありますが、ゴールデンルートは地域独自の寿司を旅行しながら堪能することをコンセプトと仮定し、各都市で消費が多い魚種を把握し、ラインナップの多様化を検討します。

①山陽地域(山口県・広島県)

連携の動きがある山陽地域のうち、下関市は家計調査の対象都市ではなく、また、ふぐ・鯨・あんこう等の特産品も対象品目ではないため、別途調査が必要です。都道府県別の生産データは、農林水産省の海面漁業生産統計調査で毎年公表されており、2024年のふぐの海面漁業漁獲高は全国5位(185t、対全国シェア3.2%[1位北海道51.2%])、海面養殖業収穫量は全国8位(92t、同3.3%[1成長崎県36.2%])となっています。本件は都市別の消費に着目した考察に留めますが、地域ブランドの開発・研究では、魚種別の生産状況(シェア、年次推移含む)も踏まえた検討が必要です。

図表3 北九州市及び西日本各都市のすし関連品目別の上位都市及び消費金額〔家計調査2025年(3ヶ年平均)〕

分類	品目名	マップ表示	都市別金額	1) 北九州市の関連品目 (図表1参照)					
				1位都市	北九州市	主な関連都市(10位以内)			
上位品目	いわし	図表4	都市平均	1位 鳥取市	5位 北九州市	2位 松江市	7位 富山市		
			451	948	702	876	700		
	たい	-	都市平均	1位 熊本市	2位 北九州市	4位 神戸市	5位 奈良市	8位 山口市	
			1,068	2,194	2,138	1,999	1,816		
他の鮮魚	-	都市平均	1位 北九州市	3位 神戸市	6位 京都市	7位 堺市			
		6,433	10,238	8,794	8,129	8,026			
さしみ盛合わせ	図表2	都市平均	1位 北九州市	2位 福井市	9位 富山市				
		3,954	6,745	5,718	4,723				
他すし関連品目	あじ	図表4	都市平均	1位 長崎市	6位 北九州市	2位 山口市	3位 松江市	8位 富山市	
			1,047	2,376	1,601	2,228	2,191	1,463	
	さば	-	都市平均	1位 鹿児島市	6位 北九州市	2位 松江市	8位 富山市	10位 山口市	
			865	1,531	1,159	1,366	1,095	1,036	
すし(弁当)	図表4	都市平均	1位 奈良市	51位 北九州市	2位 堺市	3位 大津市	4位 富山市		
		15,655	18,982	13,033	17,975	17,943	17,800		
すし(外食)	図表2	都市平均	1位 金沢市	31位 北九州市	2位 名古屋市(名古屋)	3位 静岡市	5位 富山市		
		16,346	22,406	15,512	21,750	21,079	20,969		
富山	鮮魚	-	都市平均	1位 富山市	8位 北九州市	3位 神戸市	4位 和歌山市		
			37,161	45,952	41,612	43,278	42,760		
	ぶり	図表4	都市平均	1位 富山市	25位 北九州市	2位 金沢市	4位 福井市	10位 山口市	
			3,009	6,836	3,075	4,977	4,193	3,928	
いか	-	都市平均	1位 富山市	18位 北九州市	3位 鳥取市	4位 松江市			
		1,724	3,552	1,830	2,590	2,478			
①山陽	かき(貝)	-	都市平均	1位 広島市	10位 北九州市	3位 神戸市	4位 岡山市	6位 堺市	
			695	2,112	837	1,221	1,166	963	
②山陰	かに	-	都市平均	1位 鳥取市	20位 北九州市	2位 和歌山市	3位 福井市	4位 金沢市	
			1,735	4,980	1,595	4,661	4,103	2,758	
	かれい	図表4	都市平均	1位 鳥取市	21位 北九州市	4位 松江市	5位 京都市	8位 福井市	
			908	2,685	977	1,589	1,517	1,401	
③関西	たこ	図表4	都市平均	1位 堺市	44位 北九州市	2位 神戸市	3位 大阪市	4位 奈良市	
			1,042	1,714	879	1,532	1,453	1,416	
えび	-	都市平均	1位 堺市	8位 北九州市	2位 和歌山市	3位 大阪市	4位 富山市		
		2,947	4,105	3,353	3,928	3,761	3,566		

*1.順位は都道府県庁所在地及び他政令市の全52市対象 *2.赤字は北九州市・富山市・山口市・広島市
*3.「主な関連都市(10位以内)」は西日本(主に北九州市～山陽圏)より抽出(すし(外食)の名古屋市・静岡市除く)

資料:家計調査の二人以上世帯の年間支出金額より作成

山口市のすし関連の消費の上位品目では「あじ」(図表4)が過去5年全て1位または2位と高く、すし食材としての商品開発、PRも有力とみられます。広島市は鮮魚で上位品目はなく、やはり、過去5年全て1位の「かき(貝)」の利用が最有力です。

②山陰地域(鳥取県・島根県)

鳥取市は過去5年全て1位の「かに」が想起されますが、「かれい」も同様に全て1位、「いわし」も過去4年連続1位と特定の地元鮮魚の種類が豊富で、消費も多いです(図表4)。また、「いか」も富山市と同様に上位ですが、富山市はホタルイカ、鳥取市は白イカ(ケンサキイカ)が特産品であり、鮮魚類は同じ品目でも地域により種類は異なるケースが多いため、同じ品目で地域の違いを楽しむイベント開催も想定されます。

松江市は、「かに」以外は鳥取市と類似傾向

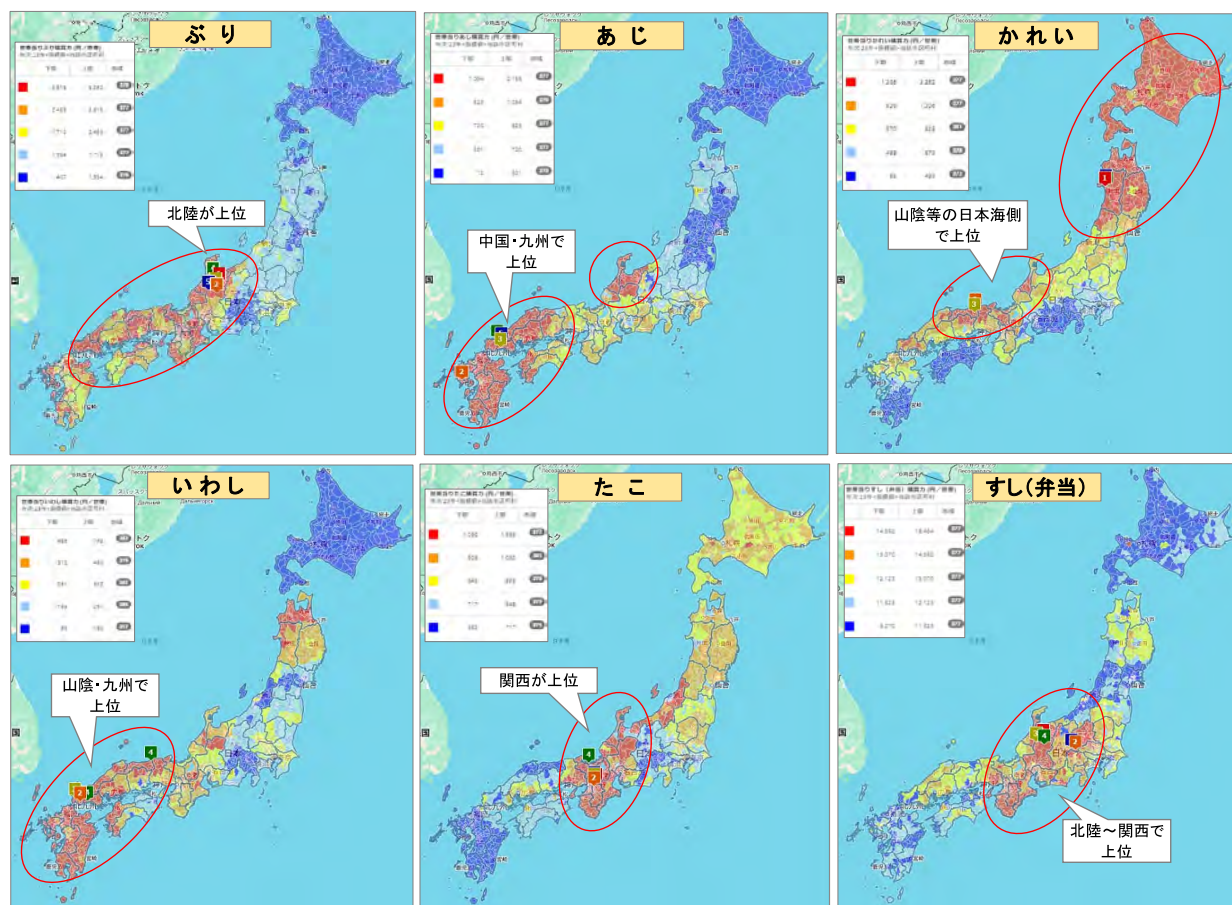
にあります。「しじみ」は過去5年全て1位で(鳥取市は過去5年平均5位)、椀物での利用が想定されます。品目によっては茶碗蒸し等“すし”食材に拘らない商品開発も必要です。

③関西地域

関西の主要都市では2025年で「たこ」(図表4)が上位4つ、「えび」が4位の富山市を除くと上位5つを占めます(1位は両品目で堺市)。たこ焼やお好み焼き等の粉もの利用が多いと推測されますが、“すし”での提供も可能性がありそうです。

また前述のように「すし(弁当)」(図表4)の消費は、1位奈良市、2位堺市、3位大津市です。順に柿の葉ずし、穴子ずし、鮒ずしが有名であり、日本古来の“なれずし”が根付いています。ゴールデンルートでは、外国人観光客にこうした日本文化を紹介する視点も重要です。

図表4 全国市区町村別の消費金額—西日本(主に北九州市~富山県)の鮮魚及びすし関連の上位品目例—



資料：家計調査 2025年(3ヶ年平均) *種子島以北を表示

●北九州市・山口市・広島市の消費購買の概況

“すしの都”の観点から消費状況をみてきましたが、調査品目の紹介を兼ねて、上記3市の食料品以外も含む上位品目を確認してみます(図表5)。

北九州市は、鮮魚類除く食料品では「たらこ(明太子)」「他の生鮮肉(もつ、馬肉、ジビエ等)」等が多く、これらはある程度予想される品目です。一般に食料品以外は高消費の認知度が低い品目も多く、「眼鏡」が上位の理由については地元メーカーや地域の歴史文化等の研究が必要です。

山口市では、「チョコレート菓子」の高消費に着目し、地元商工会議所が2020年度よりチョコレート事業を推進しており、ゴディバとの共同開発商品が販売されました。また、「殺虫・防虫剤」「マスク」が高い理由は、園芸関連の高さと関係する可能性もありそうです。

広島市は、「カーテン」「身の回り用品(かばん類、アクセサリ等)」等が高く、地元企業等の調査で要因を研究し、地元ブランドの商品開発を検討することは有力です。山口市とともに美容系が高いのも特徴です。

図表5 北九州市・山口市・広島市の消費金額の上位品目の2025年の金額と過去5年の順位推移(過去5年平均が5位以内の品目より抜粋)

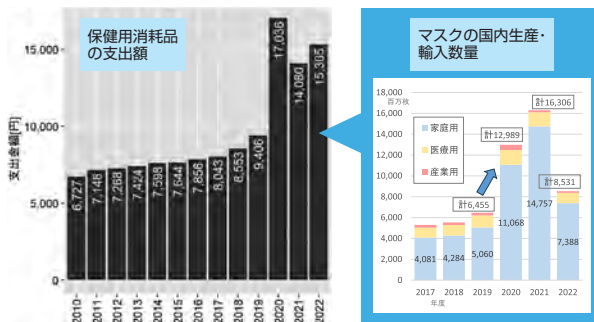
都市名	品目名	金額(円/世帯)		当該市の過去5年の順位推移					
		都市平均	当該市	平均	21年	22年	23年	24年	25年
北九州市	<食料品(除く鮮魚類)>								
	たらこ	1,936	4,297	2	2	2	2	2	1
	他の生鮮肉※1	3,217	4,115	5	3	4	4	5	8
	ごぼう	988	1,185	3	4	3	2	1	7
	焼酎	5,927	8,280	4	3	3	4	4	4
	<食料品以外>								
	眼鏡	6,517	8,127	3	2	2	1	3	6
	バス通勤定期	1,230	4,622	3	2	7	4	1	1
	<食料品>								
	山口市	あじ	1,047	2,228	1	2	1	1	1
かまぼこ		3,215	3,965	5	9	4	4	4	4
しめじ		1,899	2,178	3	1	3	3	6	3
ふりかけ		1,975	2,597	3	1	4	3	6	2
チョコレート菓子		2,869	3,325	4	1	1	3	11	3
<食料品以外>									
殺虫・防虫剤		2,551	3,329	4	3	2	8	4	5
マスク(25年追加)		2,479	3,266	2	-	-	-	-	2
ガソリン		74,129	105,987	1	1	1	1	2	2
園芸用植物		3,448	5,127	4	5	2	2	4	5
園芸用品	4,123	5,797	5	5	6	4	5	5	
雑誌	2,171	3,014	2	1	1	1	2	3	
パーマメント代	2,792	4,186	4	3	2	2	4	8	
化粧クリーム	4,670	7,232	1	1	1	1	1	1	
<食料品>									
かき(貝)	695	2,112	1	1	1	1	1	1	
他の主食的調理食品※2	19,734	25,042	3	4	3	3	2	1	
<食料品以外>									
広島市	カーテン	1,381	2,058	4	5	1	2	1	9
	マサシ化粧品等(診療外)	3,465	4,284	5	2	2	2	5	13
	バス代	3,189	5,564	4	6	6	4	4	2
	スポーツ観戦料	1,214	3,477	2	2	2	2	1	2
	石けん類・化粧品	54,697	62,669	5	5	2	4	10	4
	身の回り用品	23,456	37,165	3	3	1	1	5	5
	参考:かばん類	10,512	22,800	6	9	6	7	6	1
	参考:アクセサリ	4,225	5,058	9	26	1	1	1	15

※1. 牛肉・豚肉・鶏肉・合い挽き肉以外。馬肉、もつ、ジビエ等。
 ※2. 弁当やおにぎり以外。お好み焼き、トピ食品、冷凍食品等。
 * 赤数値は5位以内(順位は都道府県庁所在地市及び他政令市の全52市対象)
 資料: 家計調査の二人以上世帯の年間支出金額より作成(各年数値は3年平均)

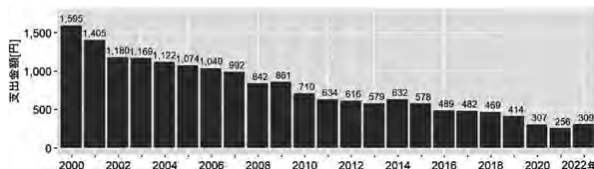
●補足：家計調査の項目の変動について

家計調査の項目は、家計消費の変化に対応するため5年毎に見直されており、2025年改定ではコロナ禍を背景にした変更も発生しています(図表6-1、6-2)。「マスク」の消費は山口市で2位ですが、2020年以降の供給増を踏まえ、保健用消耗品より分割されました。また、「ネクタイ」はコロナ禍前よりクールビズ等で急減し、「他の被服その他」に統合されました。地域独自の品目は少量のため項目統合されるケースがあり、調査項目の変動を注視しておくことが肝要です。

図表6-1 マスク関連の支出及び生産・輸入量推移



図表6-2 ネクタイの支出金額の推移



資料: 総務省統計局「第23回消費統計研究会」資料より作成

●最後に

今回は消費データ活用例を北九州市の“すしの都”の事業展開を中心に説明しました。統計項目も市場環境に合わせて変化しており、地域ブランドの検討及び展開においては、生産データの時系列動向の把握にもご留意ください。

(株)日本統計センター調査部 青山武夫)

【株式会社日本統計センター】

<https://www.nihon-toukei.co.jp/>

創立: 1961年5月

本社所在地: 福岡県北九州市小倉北区

業務内容: 調査・シンクタンク、統計データベース、マーケティングシステムの三位一体のトータルサポート



注: 図表2, 4は(株)日本統計センター提供の市場情報評価ナビ「MieNa(ミーナ)」より作成